mitoco Buddy

mitoco Buddy 2026.11.17 リリースノート

リリース日：2026 年 11 月 17 日



目次

はじめに 3

1 リリース内容 4

1.1 Box MCP 経由の Box ファイルアップロード 4

1.2 SharePoint 連携ナレッジの自動更新 6

1.3 会話からのスキル自動提案設定 7

1.4 最新 AI モデルへの対応 8

1.5 デフォルトモデルの変更 9

1.6 AI 生成回答の報告機能 10

1.7 Snowflake MCP の OAuth 認証対応 11

1.8 エージェントチャットへの画像貼り付け対応 12

1.9 [管理者]組織の残りクレジット通知 13

1.10 [管理者]モデル別のデータ保護情報表示 14

1.11 Lingo の機能改善、修正 15

1.11.1 エージェントと Lingo AI の連携 15

1.11.2 Lingo MCP 機能強化 17

1.11.3 個人タグ機能 18

1.11.4 公開共有画面のプレゼンテーションモード統合 19

1.11.5 会議中の言語切替 20

1.11.6 共有閲覧者の翻訳言語選択 22

1.11.7 [管理者]組織・権限管理機能 23

1.11.8 翻訳文の音声読み上げ 25

1.11.9 [管理者]組織内リソースの削除周期設定 26

2 お問い合わせ先 27

3 免責事項 28

はじめに

本リリースノートでは、mitoco Buddy の主要な新機能や、既存機能の機能強化に関する概要情報を提供します。新機能および機能強化には、既存の環境に影響を与える可能性があるものがあります。
より詳細な情報については、リリース時に公開予定のヘルプサイトをご参照ください。

ヘルプサイト： https://doc.buddy.mitoco.net/ja/user-guide

■ 概要

2026.11.17 アップデートでは、以下の機能を強化または追加しています。詳細については、ハイパーリンクをクリックしてください。

- Box MCP 経由の Box ファイルアップロード
- SharePoint 連携ナレッジの自動更新
- 会話からのスキル自動提案設定
- 最新 AI モデルへの対応
- デフォルトモデルの変更
- AI 生成回答の報告機能
- Snowflake MCP の OAuth 認証対応
- エージェントチャットへの画像貼り付け対応
- [管理者]組織の残りクレジット通知
- [管理者]モデル別のデータ保護情報表示
- Lingo の機能改善、修正
  - エージェントと Lingo AI の連携
  - Lingo MCP 機能強化
  - 個人タグ機能
  - 公開共有画面のプレゼンテーションモード統合
  - 会議中の言語切替
  - 共有閲覧者の翻訳言語選択
  - [管理者]組織・権限管理機能
  - 翻訳文の音声読み上げ
  - [管理者]組織内リソースの削除周期設定

1 リリース内容

1.1 Box MCP 経由の Box ファイルアップロード

mitoco Buddy のビルトインの MCP コネクタが提供され、ファイルアップロード機能によりチャットやマイドライブから Box へファイルを直接保存できるようになりました。

何ができるようになるのか:
これまでは、Box との連携に「カスタム MCP 機能」を使用して Box 公式の MCP サーバーへ接続する必要がありましたが、mitoco Buddy のビルトイン MCP コネクタとして提供されることで、カスタム MCP の設定が不要となります。
また、これまではテキストファイルのみの対応でしたが、PDF などのバイナリファイルにも対応し、Box 内のファイルやフォルダの検索・管理もチャット上で行えます。チャットに添付したファイルやマイドライブ内のファイルを、チャット上で「このファイルを〇〇フォルダにアップロードして」と指示するだけで、指定した Box のフォルダへ自動的にアップロードできるようになりました。

メリット:

- **連携設定が手軽に**
  ビルトイン MCP コネクタとして標準用意されたため、難しいカスタム MCP 設定を行うことなくスムーズに Box と連携できます。
- **画面移動の手間を削減**
  Box を別画面で開いてアップロードし直す必要がなく、会話の流れのままファイルを Box へ保存できます。
- **PDF など幅広い形式に対応**
  テキストデータだけでなく、業務で扱う PDF などの書類もそのまま安全に Box へ保管できます。

事前設定およびご利用方法:

- ファイルアップロード機能を利用するには、事前に Box の管理者が Box MCP 設定の「ファイルとフォルダ用 MCP ツール」画面にて、「アップロード URL の取得」を有効化しておく必要があります。
- Box Developer Console にて OAuth アプリを作成し、Client ID と Client Secret を取得します。
- mitoco Buddy の OAuth コールバック URL を、Box アプリ側の「リダイレクト URI」に登録します。
- mitoco Buddy の MCP メニューの「すべての連携」から「Box」を選択します。
- Client ID と Client Secret を入力し、Box へのログインとアクセスの承認を完了します。

・ チャット画面で Box MCP を選択しファイルを添付します。「このファイルを[フォルダ名]にアップロードして」と指示することでアップロードが行われます。

Box MCP コネクタ



ファイルアップロードの例



1.2 SharePoint 連携ナレッジの自動更新

SharePoint 上のファイルが更新された際に、最新の内容を自動で検索対象に反映できる「SharePoint ファイル変更時のナレッジインデックス自動更新」機能が追加されました。

何ができるようになるのか:
SharePoint に接続されたファイルを定期的にチェック(約 1 時間ごと)し、ファイルの変更を自動で検知してナレッジインデックスを最新の状態に更新できるようになります。
用途やインデックス作成クレジットの管理に合わせて、ソース(ファイル)ごとに自動更新を「オン」にすることができます。「オン」の場合、定期チェックでファイルの変更を検知すると、自動で最新ファイルを取り込み、インデックスを再作成します(※インデックス作成の成功時にクレジットが消費されます)。
完了すると、自動的に検索へ反映します。

メリット:

- **最新情報の自動維持**
  ファイルを編集するたびに手動でインデックスを更新し直す手間がなくなり、常に最新のファイル内容をもとにした検索や回答が可能になります。
- **柔軟な更新・コスト管理**
  頻繁に参照される資料は「オン」にして常に最新化し、更新頻度が低い資料やクレジット消費をコントロールしたい資料は「オフ」にするなど、運用に合わせた使い分けが可能です。



1.3 会話からのスキル自動提案設定

会話からのスキル自動提案の設定機能が追加されました。

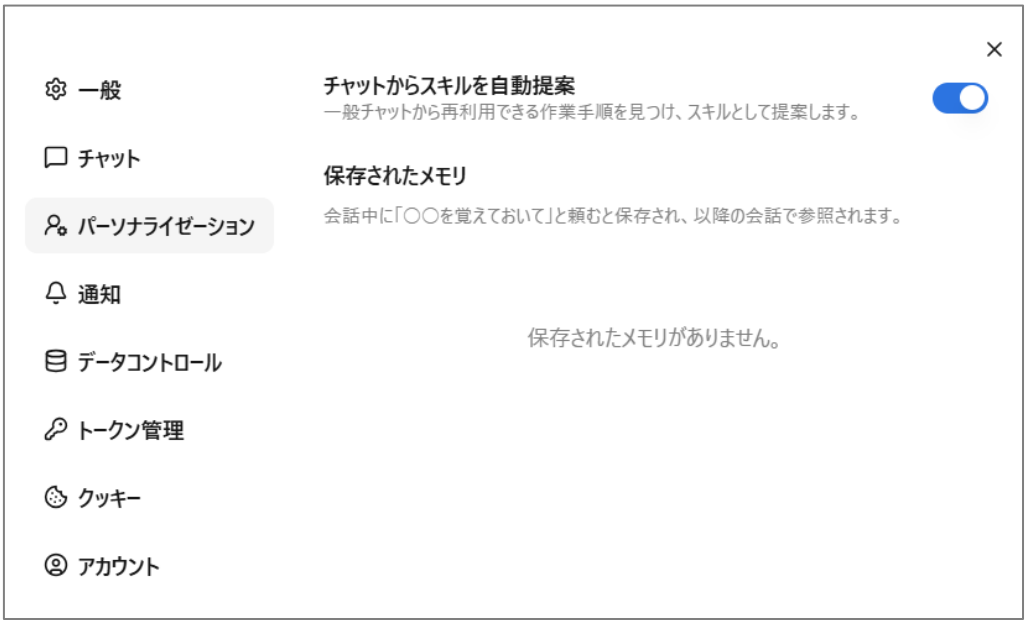
何ができるようになるのか:
AI との会話内容から繰り返し使えそうな作業手順やノウハウを自動で見つけ出し、スキル候補として提案してくれる「スキル自動提案機能」の有効／無効を設定できるようになります。
通常のチャット（パーソナライズ設定）と各エージェント個別設定の両方で、自動提案の有無を自由に調整可能です。自動提案が有効な場合、自動選定されたスキル候補は、内容を確認したうえで新しいスキルとして追加したり、既存のスキルへ反映したりできます。

メリット:

- **コストと不要なレビューの抑制**
  定型業務の繰り返しなどで自動提案が不要な場合はオフにすることで、無駄な自動レビューや追加クレジットの消費を防げます。
- **利用シーンに合わせた柔軟な管理**
  普段のチャットと個別エージェントでそれぞれ設定を分けられるため、業務の特性やコスト運用に合わせた使い分けが可能です。

設定方法と初期状態:

- **チャットの会話からスキルを自動提案（通常のチャット）**
  設定場所： ユーザー設定 >「パーソナライゼーション」>「チャットからスキルを自動提案」
  初期設定： オン



・ **エージェントの会話からスキルを自動提案（エージェント利用時）**
設定場所： 対象エージェントの「設定」タブ ＞「詳細」＞
「エージェントの会話からスキルを自動提案」
初期設定： オフ



1.4 最新 AI モデルへの対応

より高度な思考と自然な対話を実現するため、最新の AI モデルに対応しました。
用途に応じてモデルを切り替えてご利用いただけます。

新対応モデル：
・GPT-6.1 Terra

重要
- モデルを利用するには管理者設定の LLM モデル画面にて有効化する必要があります。

1.5 デフォルトモデルの変更

システムの標準モデルを「Claude Sonnet 4.6」から最新モデルの「GPT-6.1 Terra」へ変更しました。モデルを個別に指定しない通常のチャット会話では、自動的に「GPT-6.1 Terra」が適用されます。また、新規にエージェントを作成する際の初期モデルも「GPT-6.1 Terra」となります。



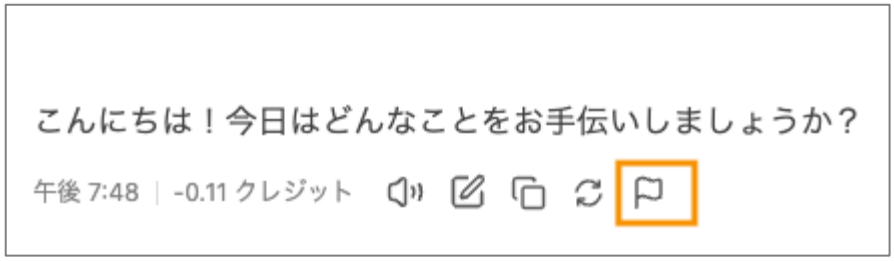
重要

- モデルを利用するには管理者設定の LLM モデル画面にて有効化する必要があります。

1.6 AI 生成回答の報告機能

AI 回答の下部から、問題のある回答を報告できるようになりました。

何ができるようになるのか:
問題のある回答について、理由を入力して送信できます。





ⓘ補足

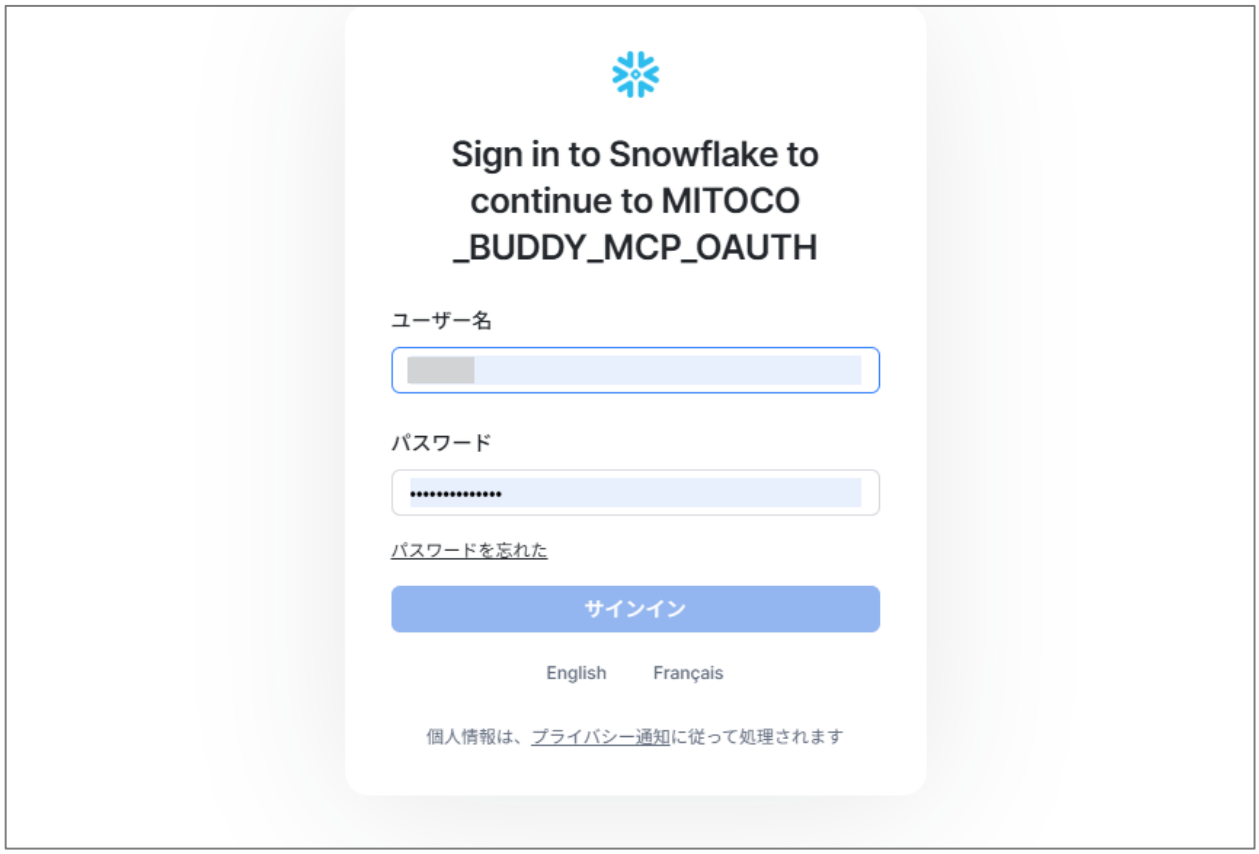
- 報告された AI の回答内容、会話情報は確認のため mitoco Buddy へと共有されます。

1.7 Snowflake MCP の OAuth 認証対応

OAuth 認証に対応した Snowflake 公式 MCP を追加しました。

何ができるようになるのか:
Snowflake 公式 MCP で OAuth 認証を利用できるようになりました。既存の JDBC ベースの Snowflake 連携には「Legacy」タグを追加しました。





1.8 エージェントチャットへの画像貼り付け対応

マイエージェントや組織エージェントのチャットに、クリップボードの画像を直接貼り付けられるようになりました。





ⓘ補足

- エージェント設定＞[詳細]＞[写真とファイルの追加許可]を ON にしてからご利用できます。

1.9 ［管理者］組織の残りクレジット通知

組織の残りクレジットが設定した基準以下になると、オーナーと管理者にアプリ内で通知します。
管理者画面の［支払い］>［クレジット不足通知］より基準を変更できるようになりました。

何ができるようになるのか：
クレジットがなくなる前に残量を把握し、追加購入の準備ができます。顧客デモや業務でのクレジット利用時にも、残量を確認しやすくなります。

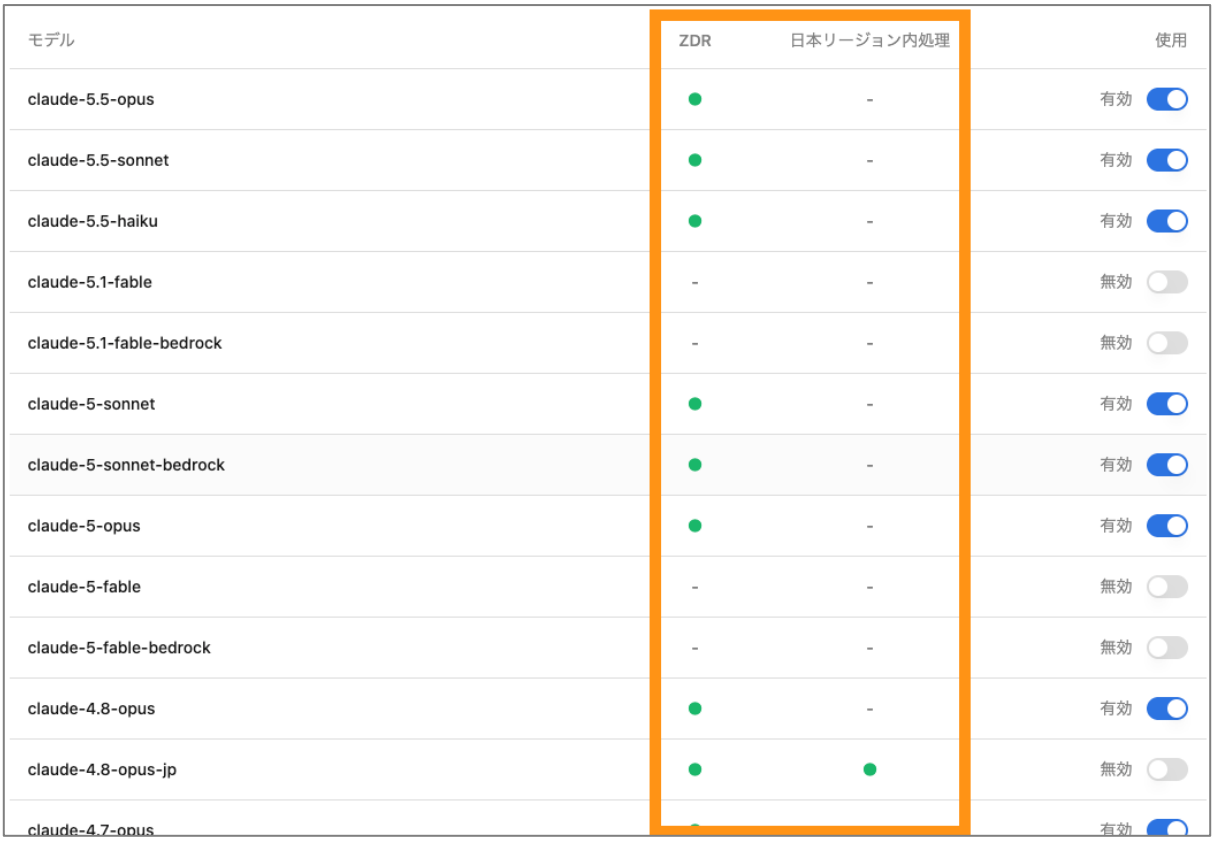




1.10 [管理者]モデル別のデータ保護情報表示

管理画面のモデル一覧で、モデルごとのデータ保護情報を確認できるようになりました。

何ができるようになるのか:
モデルごとに、ZDR および Japan Data Residency が保証されているかを確認できます。



1.11 Lingo の機能改善、修正

1.11.1 エージェントと Lingo AI の連携

mitoco Buddy で作成したエージェントを Lingo AI から呼び出して連携する機能が追加されました。

何ができるようになるのか:
Lingo AI から直接 mitoco Buddy のエージェント(個人および組織エージェント)を呼び出し、会議の文字起こし記録を活用した質問や作業を依頼することができるようになりました。
たとえば、会議の会話内容をもとにした情報の整理や、Salesforce などの外部システムへのデータ登録といったフォローアップ作業を直接実行できます。

メリット:
Lingo の画面上からエージェントを直接使えるため、作業のたびに mitoco Buddy に戻る必要がありません。会議記録の確認からその後の実務対応まで、ツールや画面を行き来することなく 1 つの画面でスムーズに完結できるシームレスな業務体験を実現します。

設定・利用手順:

【mitoco Buddy(エージェント)側の事前設定】
Lingo から呼び出せるようにするため、mitoco Buddy 管理画面でエージェントの設定を行います。

1. **mitoco Buddy の管理画面を開き、対象のエージェントを選択します。**
2. **「概要」タブを開き、「説明」を入力して保存します(説明が未入力の場合、Lingo 側で「利用不可」と表示され呼び出せなくなります)。**
3. **「セキュリティ」タブに移動し、「外部サービス接続」項目にある「外部サービス接続を許可」をオンにします。**
4. **組織エージェントを利用する場合は、エージェントが有効化されていることを確認します。**

【Lingo 側の設定・呼び出し手順】

1. **Lingo で使用するエージェントを有効化します。**
   - **① Lingo 画面のサイドバー下部にあるユーザーメニューから「設定」を開きます。**
   - **② 設定メニュー内の「エージェント」を選択します。**
   - **③ 一覧から利用したいエージェントのスイッチをオンにします。**

2　会議詳細画面の Lingo AI でエージェントを呼び出して実行します。

① 入力欄左側の「＋」ボタンから「エージェント」を選んで指定するか、入力欄に「@エージェント名」を入力して候補から選択します。

② 「会議内容を整理して活動登録して」などの指示や質問を入力して送信します。



1.11.2 Lingo MCP 機能強化

AI から Lingo のデータや機能に直接アクセスできる「Lingo MCP」連携機能を強化し、会議の文字起こし取得と音声ファイルのアップロードができるようになりました。

次のツールが追加されました。

- lingo_get_transcript
  会議の文字起こしを取得する。
- lingo_upload_audio
  音声をアップロードして文字起こしファイルを取得する。

何ができるようになるのか:
AI とのチャットや自動化フローの中で、「lingo_get_transcript」を使って終了した会議の文字起こしデータを直接取得したり、「lingo_upload_audio」を使ってお手元の音声データをアップロードし、文字起こしファイルを取得したりすることが可能となります。

メリット:
会議の議事録作成や情報共有の手間が大幅に削減されます。IC レコーダーなどで録音したオフライン会議の音声データをテキスト化したり、取得した文字起こしデータをエージェントで分析させ、Salesforce の商談履歴に記録したりするなど、他のツールと組み合わせて会議前後のフォローアップ業務をスムーズに効率化できます。

1.11.3 個人タグ機能

会議記録をユーザーごとに分類できる「個人タグ」機能が追加されました。

何ができるようになるのか:
Lingo で行った会議の文字起こしや通訳記録などのデータを、ユーザー自身が作成した任意のタグをつけて分類・管理することが可能となります。

メリット:
会議の目的(「定例会議」「商談」など)やプロジェクトごとにタグを作成して割り当てることで、過去の会議記録を目的や用途に合わせて素早く検索・整理できるようになり、必要な情報を効率よく見つけ出せるようになります。

個人タグの管理



タグによる会議分類例



1.11.4 公開共有画面のプレゼンテーションモード統合

公開共有画面にプレゼンテーションモードの表示設定が統合され、画面上で直接表示をカスタマイズできるようになりました。

何ができるようになるのか:
別の表示画面(プレゼンテーションモード)へ切り替えることなく、公開共有画面の右上にある「カスタマイズ」メニューから直接「文字サイズ」「配置」「テーマ変更」を調整できるようになります。

メリット:
ご自身の PC での閲覧はもちろん、会議室のモニターやプロジェクターに投影する際にも、利用シーンに合わせてその場で見やすい文字の大きさやレイアウトへ柔軟に変更できます。画面を切り替える手間なく、参加者全員が快適に会議記録を閲覧・共有いただけます。



1.11.5 会議中の言語切替

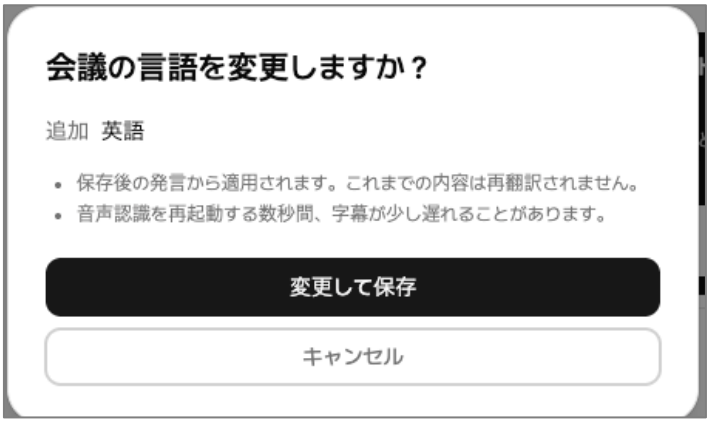
進行中の会議で翻訳言語を追加・削除できる「会議中に言語を変更する」機能が追加されました。

何ができるようになるのか：
リアルタイム翻訳を有効にしている会議の進行中に、画面上部の会議タイトル横にある編集アイコン（鉛筆マーク）から言語を追加または削除できるようになります。変更を保存した後の発言から、新しい言語設定での翻訳がリアルタイムに適用されます。

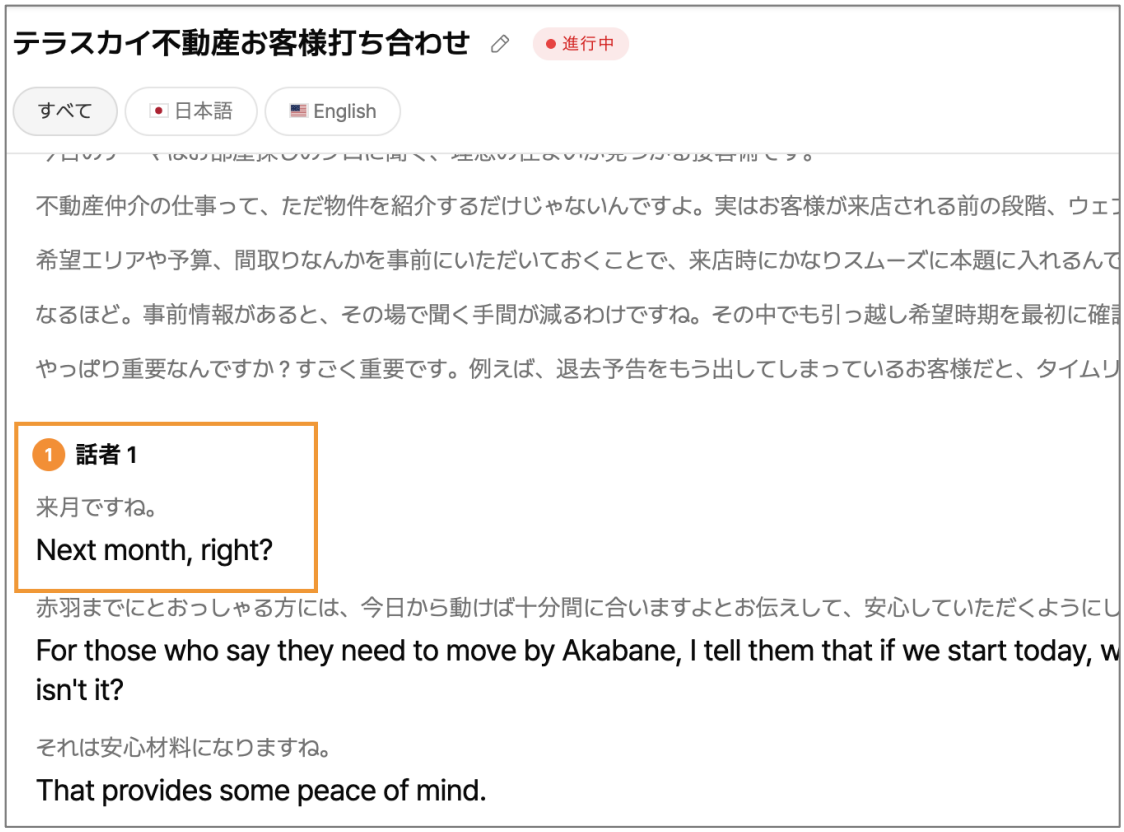
メリット：
会議の途中で急遽異なる言語を話すメンバーが参加したり、使用言語が変わったりした場合でも、会議を中断してセッションを最初から作り直す必要がありません。その場で柔軟に言語設定を切り替えられるため、会話の流れを止めることなくスムーズに多言語コミュニケーションを継続できます。

会議中に言語を追加





追加直後の会話から翻訳開始



ⓘ補足

- 言語追加は追加直後の会話から適用されます。追加前の会話をさかのぼっての翻訳には対応していません。

1.11.6 共有閲覧者の翻訳言語選択

共有された会議画面で、各自が希望の言語を選べる「共有閲覧者が翻訳言語を選択する」機能が追加されました。

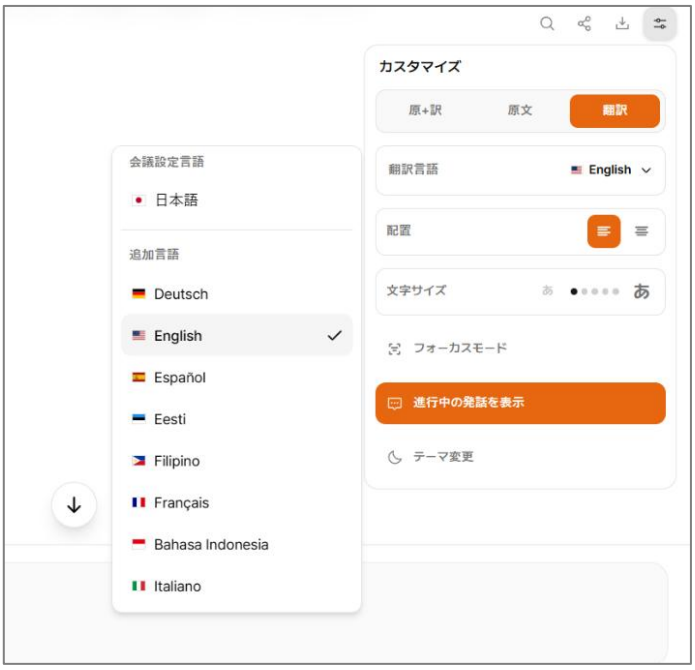
何ができるようになるのか：
リアルタイム翻訳が有効な会議で、主催者が「参加者による翻訳言語の選択」を許可すると、共有リンクを受け取った閲覧者（共有ユーザー）が各自の画面で希望の言語を自由に選択・切り替えられるようになります。

メリット：
多国籍チームや異なる言語を話すメンバーが参加する会議でも、各自が理解しやすい母国語や得意な言語を選んで会話や通訳の内容を確認できます。言語の違いによる認識のズレを防ぎ、参加者全員がスムーズに会議内容を把握できるようになります。

会議主催者が、参加者による翻訳言語の選択を許可して会議を作成する



参加者の画面から翻訳言語が選択可能



ⓘ補足

- 参加者が選択可能な言語は 1 つとなります。

1.11.7 ［管理者］組織・権限管理機能

組織メンバー・権限管理および組織設定機能が追加されました。

何ができるようになるのか：
Lingo の設定画面から、組織に参加しているメンバーの権限（ロール）の確認や変更、および組織全体で共通して使用する「組織キーワード」の登録・管理が可能となります。

メリット：
組織の運用ルールに合わせて、メンバーごとに適切な権限を割り当て、安全にシステムを管理できます。また、社内用語や業界の専門用語を「組織キーワード」として一括で登録・共有できるため、メンバー各自が個別に単語を登録する手間が省け、組織全体の会議での通訳・文字起こし精度を手軽に向上させることができます。

管理機能概要：
設定メニュー内の「組織管理」では、権限（所有者、管理者、メンバー）に応じて主に以下の管理機能を利用できます。

メンバー管理と権限(ロール)の変更

- 組織内のメンバー一覧(名前、メールアドレス、権限、Lingo の利用開始状況)を確認・検索できます。
- 所有者と管理者の権限を持つユーザーは、他のメンバーの権限を管理者またはメンバーに変更できます。※メンバー自体の招待や削除は連携する管理画面で行います。

組織キーワードの管理

- 組織内の会議で共通して使われる固有名詞や専門用語を、言語別の表記とあわせて登録・管理できます。
- 所有者と管理者はキーワードの登録・編集ができ、メンバーは登録されたキーワードの閲覧が可能です。登録された組織キーワードは、各ユーザーが会議を作成・予約する際に選んで適用することができます。

1.11.8 翻訳文の音声読み上げ

リアルタイムに翻訳されたテキストを、音声で自動的に読み上げる機能です。

何ができるようになるのか：

- 多言語リスナーへの情報伝達が円滑になります。
- スピーカーの発言がリアルタイムで翻訳・音声化されます。
- これにより、母国語が異なる参加者へスムーズに情報を届けられます。





ⓘ補足

- こちらは 11/23 から提供予定となります。

1.11.9 ［管理者］組織内リソースの削除周期設定

組織内リソースを削除する周期を設定できるようになります。

何ができるようになるのか：

保持期間の設定対象となるデータは以下のとおりです。

- ミーティング
- ミーティングの文字起こしおよび翻訳テキスト
- AI チャット履歴

設定された保持期間に従って、対象データが自動的に削除されます。



ⓘ補足

- こちらは 11/23 から提供予定となります。

2 お問い合わせ先

ご不明点などがございましたら、以下よりお問い合わせください。
https://d.terrasky.jp/ProductSupport

3 免責事項

本リリースノートは 2026 年 11 月 17 日現在のものです。本製品は、定期的にアップデートされるため、記載内容と現在の動作が異なる場合は、現況を優先させていただきます。
mitoco Buddy 利用規約については、こちらをご覧ください。
本リリースノートの内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
本リリースノートの内容につきましては万全を期しておりますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら当社までご連絡ください。



製品サポート

製品情報

https://www.mitoco.net/mitocoBuddy

製品ユーザーガイド

https://doc.buddy.mitoco.net/ja/user-guide

お問い合わせ窓口

https://d.terrasky.jp/ProductSupport

mitoco Buddy 2026.11.17 リリースノート

リリース日：2026 年 11 月 17 日

株式会社テラスカイ https://www.terrasky.co.jp/ Copyright © TerraSky Co., Ltd. All Rights Reserved.